The International Buddhist Bulletin 引刊能 The Insugeral Adde 製造の開発化 國際佛教通報局

吉永進一・大澤広嗣

中西直樹

(代表)・林

赤松徹眞 楠 淳證

)龍谷大学アジア仏教文化研究叢書4

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

第Ⅲ期

中国仏教との提携 全2巻

体裁=B5判・上製・総740頁

定価=本体46、000円+税

刊行=2017年9月

不二出版

盟を脱退した日本は、 日本仏教の関係者たちは、 やがて出口の見えない戦争へと突き進んでいった。 欧米の仏教者・研究者との連絡の緊密化を図り、

的に孤立した状況のなかで、一九三三年三月、国際連盟 アジア諸国の仏教勢力との協力提携を目指した。

検証が求められているといえよう。いま、日本の民間レベルの国際交流のあり方を問い、日本仏教の国際化を考える上で、これらの事業のの活動も多様な側面を有していた。とは否定できない。しかし、広範囲かつ大規模に及ぶその事業には、さまざまな立場の人物が関わり、そとは否定できない。しかし、広範囲かつ大規模に及ぶその事業には、さまざまな立場の人物が関わり、そその事業は、外務省や文部省、軍部からの支援を受け、基本的に国策に順応する方向性をもっていたこ

そのための必要不可欠な文献を収録したものである。

編集復刻版

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』推薦文

赤松徹眞(龍谷大学前学長・本願寺史料研究所所長)

部教授の中西直樹氏である。関誌『青年仏徒』(全二巻)を刊行する計画で、編集代表は龍谷大学文学第三期に中国仏教との提携(全二巻)、第四期に全日本仏教青年会連盟機青年会大会関係資料(全二巻)、第二期に南方仏教圏との交流(全三巻)、『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』は、第一期に汎太平洋仏教

日本仏教の国際化を考える上でも意義深いと言えよう。その実態を検証していくことは、民間レベルの国際交流のあり方を問い、和九)年に東京で開催された。戦前の国際大会として大規模なものであり、第一回大会が一九三〇(昭和五)年にハワイで、第二回大会が一九三四(昭第一回大会が一九三〇(昭和五)年にハワイで、第二回大会が一九三四(昭第一、第一期刊行の資料は、戦前に仏教者が開催した国際大会であるさて、第一期刊行の資料は、戦前に仏教者が開催した国際大会である

などが収録されている。 第二期収録の『海外仏教事情』は、一九三四年八月に国際仏教協会か第二期収録の『海外仏教事情』は、一九三四年八月に国際仏教協会の設立にの割刊された。創刊号には、会長井上哲次郎の「国際仏教協会の設立にら創刊された。創刊号には、会長井上哲次郎の「国際仏教協会の設立にら創刊された。創刊号には、会長井上哲次郎の「国際仏教協会の設立に第二期収録の『海外仏教事情』は、一九三四年八月に国際仏教協会か

事情』も収録されている。
・の交流を知る上で欠かせない『日華仏教』『支那宗教事情』『東亜宗教の情報交換を記した貴重な資料である。このほか第三期には、中国仏教の情報交換を記した貴重な資料である。このほか第三期には、中国仏教の情報交換を記した貴重な資料である。このほか第三期には、中国仏教の「国際仏教通報」は、一九三五(昭和一○)年四月に国際第三期収録の『国際仏教通報』は、一九三五(昭和一○)年四月に国際

国際交流にも尽くした情報を知る上で欠かせない資料である。れたことが確認できる。戦時下で、各宗派の仏教青年会が大同団結し、昭和一一年七月に発刊され、昭和一八年発行の第八巻第二号まで刊行さい。第四期収録の『青年仏徒』は、全日本仏教青年会連盟の機関誌であり、

資料集は価値あるものと考えられる。 医腎交流にも尽くした情報を知る上での意義を問う上でも本 の果たすべき役割が大きくなっている状況で、その意義を問う上でも本 がを余すことなく伝えるものである。二一世紀の現在、ヒト・モノ・カ がを余すことなく伝えるものである。二一世紀の現在、ヒト・モノ・カ がを余すことなく伝えるものである。二一世紀の現在、ヒト・モノ・カ がを余すことなく伝えるものである。二一世紀の現在、ヒト・モノ・カ がとの素が下ジア各地の仏教とのネットワーク構築・形成を模索した軌 といる。 本資料集は、十五年戦争下で日本が「大東亜共栄圏」を構想するなか、 医腎交流にも尽くした情報を知る上で欠かせない資料である。

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 刊行の辞

の「龍谷大学」となりました。
仏教専門学校、仏教大学と名称を変更し、大正十一年(一九二二)に今学制の改革が行われ、学寮も大教校と名を変え、さらに真宗学庠、大学林、設された「学寮」を淵源とする大学です。その後、明治維新を迎えると設された「学寮」を淵源とする大学です。その後、明治維新を迎えると

る研究機関です。

る研究機関です。

る研究機関です。

のもと設立された世界仏教文化研究センターの傘下にあ究センター」が設立されました。龍谷大学アジア仏教文化研究センターは、の拠点となるべき新たな機関として、本学に「龍谷大学世界仏教文化研有する最新の研究成果を国内外に発信するとともに仏教研究の国際交流大学は高い評価を得てまいりました。そして平成二十七年四月、本学の大学は高い評価を得てまいりました。そして平成二十七年四月、本学の大学は高い評価を得てまいりました。そして平成二十七年四月、本学の大学は高い評価を得てまいりました。

七年度~平成三十一年度)を申請し、採択されました。 共生社会における課題と展望―」と題する研究プロジェクト(平成二十的研究基盤形成支援事業」に、「日本仏教の通時的・共時的研究―多文化アジア仏教文化研究センターは、文部科学省の推進する「私立大学戦略世界仏教文化研究センターが設立されるにあたって、その傘下にある

本研究プロジェクトは、龍谷大学が三七〇余年にわたって研鑽し続け 本研究プロジェクトは、龍谷大学が三七〇余年にわたって研鑽し続け 本研究プロジェクトでは通時的研究グループ(ユニットA「現代日本仏教の社会性・公益性」、ユニットB「多文化共生社会に に変するものです。このような研究があり方を有機的に進めるため、本 展望するものです。このような研究があり方を有機的に進めるため、本 展望するものです。このような研究があり方を有機的に進めるため、本 展望するものです。このような研究があり方を有機的に進めるため、本 展望するものです。このような研究があり方を有機的に進めるため、本 題を多文化共生の文脈で学際的に追究し、今後の日本仏教が直面する諸課 的視野から通時的共時的にとらえるとともに、日本仏教が直面する諸課 できた日本仏教の成果を踏まえ、これをさらに推進し、日本仏教を世界 てきた日本仏教の成果を踏まえ、これをさらに推進し、日本仏教を世界 になりました。

て国内外に発信する諸成果に、ご期待いただければ幸いです。一の傘下にあるアジア仏教文化研究センターが、日本仏教をテーマとし化研究叢書」の第四号となります。今後とも、世界仏教文化研究センタであり、第Ⅱ期「南方仏教圏との交流」に次ぐ「龍谷大学アジア仏教文期「中国仏教との提携」は、右のような研究プロジェクトの成果の一つ期「中国仏教との提携」は、右のような研究プロジェクトの成果の一つコのたび刊行される『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』第Ⅲ

日華佛教學會創立ノ趣旨

鑑ミ、茲ニ「日華佛教學會」(中國ニ於テハ「中日佛教學會」ト云フ)ヲ發起 未ダ十全ノ域ニ達シテ居ナイ。之ハ兩國ノ佛教徒ノ問ニ相互ニ往來シテ自由 其ノ關係ハ稀薄ニナツタ。近世ニ至リ少數ノ先覺者出デ、復興ヲ企テタガ、 ニ研究シ、以テ融和向上ニ資スベキ連絡機闘ガ缺ケテ居タカラデアル。 吾等ハ特ニ佛教ガ日華ヲ結合スルニ最モ有力ナル精神的紐帶デアルコトニ 中華ト日本ノ交渉ハ千數百年ノ歴史ヲ有ツテ居ルガ、近代ニ至ツテ反ツテ

始スルコト、ナツタ。依 ルヤ切ナルモノガアル。 シ、兩國ノ佛教徒ノ多年 中華民國廿四紀

佛 敎 各 宗 の

支 那 於 け る

動

き

内地宗教専門學校以上に支那科、中等 設置。六、日本人数師養成幹旋。七、 支佛教留學生交換。四、支那寺院復興 設くる事。二、社會事業經營。三、日 づ佛教部では一、各地に日華佛教育を 要な事業を合同で行ふことである。先 佛悲の三数が、支那質は工作上最も重 學校に皮那語数段の八、日本佛数團體 助成。五、佛教文化文献蒐集研究機關 結成されんとしてゐる。その內容は呻

> 協議會を聞いた。 於て對交方策の重要機關設置に關する

▲ 中支に於ては「中支宗教大同聯盟」が

▲ 廣東市内の各寺院住職一百名は結束し 提寺能栖の南前が就任した。 寺鐵禪師、常務理事は白雲寺了悟、曹 て南支係教育を結成した。會長は六葉

ける同宗の教育事業は頗る注目すべき 事業に努められてゐる。又合兒莊に於 正會能を開設し文化事業教育事業社會

▲日蓮宗に於ては南京小火瓦心に此程立

筈である。

谷目

上 海 9 佛 敎

上海特務機關 牧 E

=

H

請

亮

概 况

一、上海に於ける佛教初傳の史蹟―龍華

に至るも断言し難い。 然し晋以後始めて全盛の時代に 佛教が何時支那に傳來したか 其の明かな時日は 今日 上海の龍華寺と

華寺方丈 (北派佛教代表) 等の出席が は西敦の活佛安欽氏である。 者は、夏蓮居真園道學會々長等で會長 あつて盛大な成立會が行はれた。發起 じめ同寺方丈(南派佛教代表)人明治

> 時に於ける佛教の か康僧會の爲に建

あると 云ふこと 然し龍華寺及び

▲ 南支バイアス灣に上陸せる西本願寺從 校を設立して着々文化事業に貢献する 物を得本願寺となし、更に優門に女學 軍僧一行は此程震東市正南路黃埔開棒 督辦公署跡三階越て二百八十年の建造 を考へてみると、 雅い。 由來佛寺の

定論なきが 常で

▲ 北支太原の西本願寺では去る十二月廿 八十名で三班に分つて敦揆してゐる。 七日日語學校を開設した。入學生は百

> に依るに、 であつて、同時の所建とは思へないのである。 彼の傳 断言できぬのである。 然し乍ら建塔、建寺各別のこと 康僧会と 龍華寺との間には 相當の臨係が無かつたとは 現今の上海附近の海岸であることは斷定でき、 從つて

商資に依つて交趾に移る。 康僧會、其の先康居の人、 世々天竺に居る。其の父 寺に於て象經を譯出す。 晋太康元年四月寂す。 故に建初寺と號し、 其の地を佛陀里と名く。會建初 に爲に塔を造るべしと。……依つて始めて佛寺有り、 權召して會に謂つて云く、 十年を以て建業に達す。茅茨を營立す。設像行道す、 るも、 佛教未だ行はれず、會乃ち杖錫東遊す、赤鳥 亡
ず。出
家して
僧となる。 時
に
孫権己
に
江
左
を
制
す 若し能く合利を致さば當 會年十餘歲、二親並びに

佛 敎 號 目次

日華佛教學會々則 會 日華佛教彙報 日華佛教學會役員 長安に旅しての感慨 日華佛教學會に對する中華民國側賛助者 日華佛教學會に關し太虚法師との打合せ事項 中國佛教歷訪記 中日佛教之比較觀 中日佛教學會設立的我見 四段階を經たる日華佛教交渉史斷片 中華佛教視察記 日華佛教學會創立ノ趣旨 日 華 會 長 結 墨好大 墨 藤 城 井田 進 令 春 宣化へこ 聞…(量) 禪基醒 禪 C M) - (見) (票) 一旦) (元) -0100 元元 会員 5180 をは長 北京日

同 願

方諸佛の同ずる所にして本會同仁の根本大願も亦此に外ならず。 て根本とすべし。 所謂衆生無邊警顯度、煩惱無盡誓顧斷、法門無量誓顧學、佛道無上誓願成たり。此の四弘警顯は十 十方の如來は皆大悲願力を以て應化垂迹す。 應化の因緣方便萬殊なりと雖も、而も一切の願力は要ず四弘誓顧を以

り佛法上の有寫の功徳たるに過ぎず、而もその明效は已に醴樂刑政と並べ論すべき所にあらざるなり。 と具に史に載す。「按じて知るべきなり。良以に人心治まれば則ち天下治まり、佛道昌なれ即ち世運昌なり。此れ固よ 佛法東淶してより二千年、 益々光輝を發揚し、普く群機を璘す。聖教の興衰は常に世運とその消長を同じらするこ

るも未だ懸測し難し、姑く之を詳論せず。 惶して戦争の免れざるを恐れ死期の將に至らんとするを慮る。 歐洲の職は全局を牽動し、將來その停止するを知らざ **ず、遂に腥風血雨人間に遍漓するに至る。 地は東西を間はず、人は黄白を論ぜず、戰々慄々たらざるはなく、日夜驚** 起り、萬豪流離す。その所以を究むるに皆これ芸々たる衆生覺心日に晦く、 業果日に積み、貪欲瞋恚して自ら懺悔せ 忽にし、個人を偏重して全體を顧みず、 近年來歐西の風雲日に亟く遂に戦亂を醸成するに至り、 人心の不安その極點に纏す。猶復た物質を迷信して精神を 人は横流を欲して邪説放行す。東亞も亦水火力兵の災醴迭に乗じ、七難競ひ

中日兩國不幸の事件發生してより悠に二歲を經たり。 焦土洪流創深く痛鉅し、憂時の士間より早く已に軈首蹙額し

編

後

il.

八番り

中西直樹・近藤俊太郎 監修

令知会雑誌

全 7 巻

西洋化とそれに伴うキリスト教の進出に対する僧侶たちの危機感を背景に、仏教界は明治二○年代に改革の時代を迎えた。そうした仏教改革の気風の胎動として、明代を迎えた。そうした仏教改革の気風の胎動として、明治一七年四月に機関誌『令知会雑誌』を会を結成し、明治一七年四月に機関誌『令知会雑誌』を創刊した。令知会は当時の代表的な仏教系メディアの先駆あり、『令知会雑誌』はその後の仏教系メディアの先駆あり、『令知会雑誌』はその後の仏教系メディアの先駆的位置にあるといえる。

収録=第1号~第95号(明治17年~25年)

体裁=A4判・上製・総約推薦=大谷栄一

体裁=A4判・上製・総約3、030頁

定価=本体175、000円+税

中西直樹・近藤俊太郎 編著/中川洋子 執筆

令知会と明治仏教

文集である。 本書は令知会機関誌『令知会雑誌』を研究の対象とし、 本書は令知会機関誌『令知会雑誌』を研究の対象とし、

体裁=A5判·上製·200頁

定価=本体2、700円+税

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成

検討するための、必要不可欠な資料集である。開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を

推薦=大村英昭・坂口満宏

〈ハワイ編〉全6巻

定価=本体120、000円+税体裁=A5判・上製・総3、642頁

〈北米編〉全6巻

体裁=A5判・上製・総3、372頁

定価=本体120、000円+税

〈南米編〉全3巻

定価=本体60、000円+税体裁=B5判・A5判・上製・総1、526頁

中西直樹 著

仏教海外開教史の研究

めたものである。本書は『仏教海外開教史資料集成(ハワイ編・北米編・本書は『仏教海外開教史資料集成(ハワイ編・北米編・

体裁=A5判・並製・120頁

定価=本体2、000円+税

菊池正治・髙石史人・中西直樹 編・解題

戦前期仏教社会事業資料集成

全13巻

明治末から大正・昭和戦前期、仏教が社会事業に果たした役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者がした役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者がみ上宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団関係機等上宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団関係機関の発行した社会事業の要覧・便覧・報告書等を収集整関の発行した社会事業の要覧・便覧・報告書等を収集整関の発行に利用された側面も含めて検証し、仏教史・仏教的遂行に利用された側面も含めて検証し、仏教史・仏教・協議・は、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料と福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料と福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料と福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料として提供する。

定価=本体334、000円+税体裁=A5判・上製・総7、556頁推薦=長谷川匡俊・室田保夫

中西直樹・髙石史人・菊池正治 著

戦前期仏教社会事業の研究

題と収録内容を一冊にまとめたものである。本書は『戦前期仏教社会事業資料集成』に収録した解

定価=本体2、500円+税体裁=A5判・上製・168頁

Why I came to Zen Buddhism

A talk given by Mrs. Edward W. Everett.

these

must b

in life

comes

in and

Univers

answer

form ar

of beau

the real

howed

existence

yearning

Some

GENTLEMEN -

This is my third visit to Japan, and while through the many devoted friends which I have made in this beautiful country of yours' I have come to consider Kvoto as my second home, in reality, of course, I am a stranger to most of you. People, both American and Japanese, are generally curious to know why I come to Japan to study Zen. I suppose the same question has arisen in your minds also.

I am an ordinary, everyday, American woman. I am not an adventuress, not a scholar, not an artist, not a literary person. My life at home is that of the usual American woman of some means, a life which I judge, does not differ much from that of Japanese women in the same situation in society. My main concern is for my husband, my child, my relatives, my friends and my home. But it has for many years seemed to me that most of us live the brief span of years

(8)

allotted to us between birth and death only half-conscious, only half-awake to what life really is. The first concern of our daily life must, of course, be with material needs; food and drink, clothing and shelter. Without them life itself

when anothe 主 催 全日本佛教青年會聯盟 and of which 日 時 昭和十年四月十八日午後六時から

會 場 小石川傳通會館

stand th 出席者 (イロハ順, 数鉛略) a longi

稻葉文旗 石上 昭然 努井 宗憲 蜂谷 惠晃 濱田 本悠 西岡 能園 神田 正法 言并 芳純 高佐賈長 孫 结 中島 裁之 村上 道隆 野口照清 工藤 敏見 來馬 琢 道 小林 良甫 小林 脉藥 荒水 哲信 对 山 四 伸 窓田 宥雄 三原 佳一 水野塩麻 耐永 孝英 祥雲 洪前

満洲の佛教を語る夕[紫素]

稻葉 今夕はお忙しい處多數御出席下 さいまして有難うどざいます。先づ 満洲、蒙古、支那で布教事業等に携 つて居られる方々のお集りを願ひま した次第で、水野梅鵬先生も後でお 見えになりますし、吉井澤田小林諸 氏もお見えになる筈です。それから 特に満洲公使館の孫氏がお見えにた

わかった して、質 と思ひま 調察にか と思ひま 見えにな

ふちゃの 速し願ひ お聞きし ては夫々 あります

(12)

松浦 散響 選野 研真

OC. 2

くても

おへて

ひをす

の名前

東的に対

練さい

あるの

世界各国

大いに

貸して]

らせ願ひたいと存じます。 孫 私は實は七時から他へ行かなけれ ばなりませんので、其の事を全しく 御勘り申上げます。只今の粛洲佛教 の狀態は、我々の先輩として満洲に 行かれ、色々調べて來られかやうた 方が居られる事を承知して届ります

から、一窓御芳名だけを順次に御知

縮 創 刊

品長 大 村 桂 巖

香人粉釋迦牟尼数活躍於驗驗之上,是即修行菩薩道也,菩薩道者一而為 自修爲向上,一面爲同化爲敦濟、前者如釋拿之入由學道,後者如其出山教 化基他。

然向上修行不能蔑視緣起同化之力,又敎化救濟若不由央本有佛性,亦屬 無堅、故佛之敎、菩薩之道是社會的、靈性的,是謂之大乘也。

> 上,重要固不待言,即於國際生活上亦屬必須不可缺。 現於東方大日本帝國正最能發輝其本領焉。

會聯盟應於時變之要求與鹽機之即强,對此菩薩道之 而其使命、茲於創設關際佛教通報局、即於本四月創 一號,以與世界大方之青年佛教徒 共同努力於此佛 促進大乘菩茲道之實踐也。

東西,均失平靜,人心不安,彷徨於世相濶巡之境皆 察关体人救世現而已。

青年、貧率大型理算之遺訓、體驗大乘佛教之眞精神] 展集世界之寄年佛徒相提携,使教祖偉大之人格。復 光明,盆地共輝耀,群浩幸福,科勝企蘭。 國際佛教通報」之誕生、又不雪等於獨尊之新降铤也, 下諸國之法經,世界人類之法幢,佛日冥鑑,歲益增 6巴灣。

(2)

第三回汎太平洋佛教青年會大會の展望と 満洲佛教の現狀及將來

稻 葉 文 海:

昨年日本に於て開催されたる第二回 汎太平洋佛教青年會大會に於ては、次 れる同國駐日公使を通じて調査しつ x 回大會即ち第三回汎太平洋佛教青年會 大会開催地の決定を見ることが出来た かつた。それは主たる参加関であり、 汎太平洋佛教青年會聯盟のメンバーた る北米、遥羅、満洲の代表より夫々自 顧開催を基案して纏らず、※にその決 定權は擧げて全日本佛教青年聯盟に一 任されることになつたのである。爾後 一周年過ぎ、漸く世人も之を問題視す るに至り、此に全聯獨自の立場を以て 之が裁斷をなさねばならぬ時機に到達 したのである。是より先に本年四月、 金澤に於ける圣聯第五回總會に於ても 第三回を湿羅に於て開催すべしといる 総案が提出され、次いで五月の全國理 事會に於ても此問題が議せられたので ある。その際大村理事長はそれ等に関 して瀟洲國の實地調査の要あるを説き 白らその任に當る意向あることを言明 されたので各理事も亦之を賛同したの であつたが 今回その言明に基いて大 料理事長に私が職件して、去る八月六 日より同州一日まで、直接瀬州國に渡 つて之が調査観察を遂げたのである。 繋に常光理事 も亦如上の要称を帯びて 布哇, 北米に旅立ちて彼地の實地調査 に當つて居り、一方澤羅國に黜しては.

佛教について特別な熱意を持つてをら あるのである。かくてこれ等三関の資 料を蒐め描へた上で、此處に最後の斷 **拳を下すべき順序である。此の問題は** 罪に國際佛教の消長に闘するのみなら ず、炭鮠たる國交上にも重要な意味を 持つものであるから、本部としても変 分岐重なる態度を以て臨む必要がある のである。

然して我まの渡滿は單に第三回大會 に関して満洲國の現狀を視るといふに 止まらず、更に同歴佛教の將來につい て深き関心を持ち、これについて何等 か將來の見透しを得たいといふ意向を 持つてるかのである。盛宵に云ふたら ば、現段階に於ける瀟洒國佛教そのも のが果して第三回大會を指導開催し得 る状態にありや否やは調査を待たずし て一座判定のつくものであつて、强ち 態と現地に出掛けて調査視察を遂ぐる 絶對的必要もあるまいが, 然し今後満 洲佛教の登展のために大會開催が絕對 に必要とあらば、多少の支障は排除し ても開催するだけの決心は持たねばな らぬと思ふ。

我が聯盟は囊に駐日漸洲國大使を過 じて、「満洲國に於ける佛教與隆に關 する准言書』を張國務線理及び阮文徽

現代支那の佛教事情

界大教授 福 井 康 順

第一 支那現代佛教の特異性

現代の支那佛教事情をお話する前に は、どうしても支那の現在の機構を述 べるべきであるが、それは先輩に譲つ て、ここには略すこととし、私は支那 の現在の散勢を述べ、殊に、日本に餘 り紹介されてゐない。支那現代の思想 界が佛殿を如何見てゐるかを零へて見

一, 支那の現代佛教は日本人に根本 的に理解出來ぬものを一、二持つてゐ る。支那の寺院では信仰内容が非常に 判然してゐたいことである。 日本では 重会寺跡なら本堂に阿彌陀如来の本飲 を飾り、本願寺の末寺で、住職や寺族 はその宗派の信仰や教養を持ち、それ を喜び、理解してゐる。その他の宗も 皆さうである。然し、支那では禪寺に 禪僧が住持として入らす。然も本山宋 寺闕係が判然としてゐない。しかも横 の聯合もなく, 同じ宗の寺の聯絡も組 合も協調もない。單獨である。支那に も佛教團體もあるが、例へは中國佛教 會は寺院の集りでなく,居士の集りで, 尚とのやうな傾向が強いのである。第 - に寺院に思想的立場がなく,寺院間 に連絡と結合がないことで、これは我 々が支那佛教を考へるのに、第一に念 頭に促かねばならぬ。第二に寺院の住 職の任免の標準が判然としてゐない。

度の大字の建設した関史会け北京にあ つて最古であり、 職に死んだ敵味方の 質を慰めたと傳へられてゐる名刹であ るが、その住職を何人がどういふ標準 で命するのか解らす。末寺関係も知ら れない。唯寺は個人の僧の住所になつ てゐるにすぎない。日本では寺院は一 定の完派に隠し、その本意を有し、そ の敎強を宣布してゐるのであるが、支 那の寺院はさうではないのである。あ る僧がそとに住み、それらが支那佛教 を爲してゐるのである。蔣介石が革命 笛を起して北京を占領した時、その個 息寺に自分の総故の僧侶を 住職 に入 れ、その優が気首分の総故の僧を引い て他の寺院に入れた。張墨良が南に入 ると元の領内の倍を連れて來て, 住職 を追ひ出して、その寺に移す。上の爲 すこと下之に做ふで,他の大臣や知事 や部將リフを爲すのである。元來支那 は中央政府にしても地方官でも, ある 地位を得ると、一族と総故の者でその 下の地位を凡て塞ぐ慣であるが、それ が佛教寺院にまで及ぶのである。従つ て支那の他には完派的には何の系統も ないのである。從つて太虚が日本に來 る時にその興騰は彼の一緒であつて、 名は支那佛敎僧侶訪日願であつても、 質は太虚の弟子達にすぎない。日本で は太虚法師の訪日團を歡迎すれば、佛

資料集 ・戦時下 [日本仏教]の国際交流 【編集復刻版】

●龍谷大学アジア仏教文化研究叢書4

編者

「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班 中西直樹(代表)・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣 龍谷大学アジア仏教文化研究センター

◆第Ⅲ期

赤松徹眞・楠 淳證 推薦

刊行 = 2017年9月 定価=本体46、000円+税 体裁=B5判·上製·総740頁 中国仏教との提携 ISBN 978-4-8350-7864-9 全2巻

収録内容

*巻数は第Ⅰ期・第Ⅱ期から継続しています

『国際仏教通報』国際仏教通報局 1巻1号~3巻10号(昭和10年4月~12年11月)

第6巻

第7巻 『日華仏教』日華仏教学会、

1巻1号、1巻2号、1巻5号、2巻1号 (昭和11年1月~12年1月)

『支那宗教事情』日華仏教研究会:

1号~5号(昭和13年12月~14年8月)

『東亜宗教事情』日華仏教研究会 6号~10号(昭和14年11月~15年7月)

●第Ⅰ期

体裁=B5判・上製・総1、008頁 汎太平洋仏教青年会大会関係資料 ISBN 978-4-8350-7857-1 定価=本体48、000円+税 全2巻

刊行=2016年2月

年会大会紀要』(昭和10年)ほか収録 洋仏青大会紀念号(昭和9年)、『第二回汎太平洋仏教青 『兄弟』2巻2号 仏誕二千五百年紀奉祝・第二回汎太平 『第一回汎太平洋仏教青年大会並会議紀要』 (昭和6年)、

●第Ⅱ期

体裁=B5判・上製・総1、298頁 南方仏教圏との交流 全3巻

定価=本体72、000円+税 ISBN 978-4-8350-7860-1

刊行=2016年10月

年)、 『大東亜建設学徒大会紀要』 (昭和18年) ほか収録 昭和9年~19年)、『南方仏教青年会会報』1号 『海外仏教事情』1巻1号~10巻4号(国際仏教協会) (昭和16

事Ⅳ期

刊行=2018年8月予定 全日本仏教青年会連盟機関誌 青年仏徒 全2巻

不二出版

ファクシミリ03・3812・4464電話03・3812・4433東京都文京区向丘1・2・12 振替00160.2.94084 T113.0023